

令和6年度第2回 生駒市環境審議会

【議事要旨】

日時:令和6年11月22日(金) 9:30~11:30

場所:生駒市役所 4階 大会議室

1. 配布資料

- 資料1 令和6年度版「生駒市の環境」
- 資料2 第3次生駒市環境基本計画素案
- 資料3 第3次生駒市環境基本計画 現計画と改定案の比較
- 資料4 生駒市の地球温暖化に関するアンケート調査結果
- 令和6年度版「生駒市の環境」 修正箇所
- パブリックコメント実施にかかるチラシ
- 意見・情報提出書

2. 協議会出席者

区分	所属	氏名
会長	奈良県立大学 教授	水谷 知生
副会長	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 主任研究員	河瀬 玲奈
委員	奈良県地球温暖化防止活動推進センター センター長	谷 茂則
委員	生駒市自治会連合会 副会長	阪本 隆利
委員	学研生駒工業会 会長	津山 信治
委員	生駒市農業委員会 副会長	稲葉 健三
委員	エコネットいこま 代表	矢田 千鶴子
委員	一般社団法人 市民エネルギー生駒 代表理事	楠 正志
委員	生駒市社会福祉協議会 事務局長	辻中 伸弘
アドバイザー	元生駒市環境マネジメントシステム推進会議委員	松本 昌康
事務局	生駒市地域活力創生部長 生駒市 SDGs 推進課長 生駒市環境保全課長 生駒市環境保全課 課長補佐 生駒市環境保全課 課長補佐 生駒市 SDGs 推進課低炭素まちづくり推進係長 生駒市環境保全課保全係長 生駒市環境保全課事業係長 生駒市環境保全課施設係長 生駒市 SDGs 推進課低炭素まちづくり推進係	川島 健司 木口 昌幸 河島 嘉明 木戸 勇 高谷 英明 島田 奈穂 坂田 真哉 柳田 裕規 河盛 崇彦 堀 美穂

3. 議事録

1. 開会	
2. あいさつ	
3. 案件	
(1) 令和 6 年度版「生駒市の環境」について	
事務局	令和 6 年度版「生駒市の環境」について説明。
水谷会長	環境マネジメントシステムに基づく監査結果報告について、矢田委員と松本アドバイザーから意見を求める。
松本アドバイザー	監査結果については記載のとおりである。市役所職員に対するエコオフィスアンケートの回答率が 40% しかなく驚いている。また、環境マネジメントシステム委員会が環境基本条例で定員 35 名以内と規定されているが、現在 5 名しか活動していなく、委員数を増やしてほしいと要望している。
矢田委員	2012 年から運用されているシステムで、当初は環境基本計画のみが対象であったがその後様々な計画等が追加されており対象が多岐にわたっている。市民監査は重要と考えるので、この取組を続けていくためにあり方や体制を見直してほしい。今後の活動方法について、検討してもらいたい。
水谷会長	活動方法や人数について、事務局には検討していただきたい。 令和 5 年度版「生駒市の環境」について、委員に意見を求める。
河瀬副会長	温室効果ガスの基準年について、修正版と本編で異なっている。どちらが正しいのか。
事務局	5 ページに記載の目標は、令和 6 年 4 月から運用している数字で、令和 5 年の実績は現行計画の数字になるので基準年が異なっている。
矢田委員	「はじめに」について、1 は脱炭素として大きな取組を挙げているが、2 と 3 については各論になっているので、1 とあわせて総論的な内容にすべきではないか。
水谷会長	「はじめに」の記載について見直していただきたい。その他、全体的に何かあれば意見をいただきたい。
谷委員	バイオマスの前提になる森林についての記載が少ないと感じる。生駒市は面積 5000ha のうち 1/3 が森林であるが、その点についてどう考えているのか。脱炭素先行地域でもあるので、クレジットの創出なども検討してほしい。
事務局	民間主導によるバイオマス発電所が稼働しており、大阪府内の建築廃材を主に利用している。今年度から生駒市内の木質廃棄物等も使用し始めたところである。
(2) 第 3 次生駒市環境基本計画の見直しについて	
事務局	資料 2～4 について説明。
水谷会長	指標や 4 つの目標などについて、何か意見はあるか。
楠委員	生駒市として前向きに取り組んでおり、計画の 3 ページ目を見ても、きちんとステップを踏んでいることがわかる。また、生駒市は環境に関心をもった市民が多いと考えており、

	脱炭素先行地域などに選出された都市なため、国も関心を持っていると思う。今後も行政・市民・事業者が一体となって進めるべきである。
矢田委員	よく見直されていると考える。住宅都市として生駒市を推し進めるなら、日々生活している市民に対してさらに周知してほしい。市民生活においてはデコ活が重要と考えている。まずは、デコ活というワードを知ってもらい、市民にその意識を浸透させてほしい。
水谷会長	市民の取組として計画に記載があるが、実際にどのように市民の行動変容を促すか考えてほしい。
矢田委員	リーディングプロジェクトについて、デコ活というワードを通じて計画の内容を知ってもらうように誘導すべきと考える。
水谷会長	市民に対する普及啓発について計画内に記載あるのか。
矢田委員	現状見受けられないので、追加してほしい。
水谷会長	市民に向けた普及啓発について、どのように計画を知ってもらうか具体的な策はあるか。
事務局	リーディングプロジェクトの 4 つ目「コミュニティ」がその観点の内容と考えているが、もう少し踏み込んだ内容にするよう検討する。
津山委員	学研生駒工業会は環境と逆の立場にあり、営利活動を目的にしているため赤字を出してまで環境に配慮することはできない。補助金等の情報や金銭的に負担のかからない方法などの情報を提供してほしい。また、計画にそのような内容を盛り込んでほしい。
水谷会長	アンケートを踏まえた内容を計画に盛り込んでほしい。市民や事業者が行うことに対して市がどのように支援を行うのか計画に記載してほしい。
谷委員	資料 2 の 37 ページについて、バイオマス発電所の稼働を見込んだ数字なのかどうか尋ねたい。
事務局	バイオマス燃料の燃焼に伴う排出量については、相殺されるため排出量としてはゼロカウントになっている。
河瀬副会長	森林の保全のベースには自然を守ることがある。指標としては農地に関する事のみになっているため、農地を守れば自然を守ることになってしまう。また、山・川・里山全体を俯瞰する指標や視点があってもよいと考えていて、現状リーディングプロジェクトに森林について記載があるのに指標として森林について記載がないのは繋がりが無いと感じてしまう。自然環境の指標として、どの視点でとらえていくべきか考えてほしい。
水谷会長	自然環境をみる指標として、この内容で良いのかという議論は昔からあり、指標化するのが難しいことは承知しているが見直したほうが良いと考える。リーディングプロジェクトには森林の記載があるのに、指標に森林関係のものが無いのは違和感を覚える。また、河川の水質については自然環境と生活環境双方に属してもいいのではないかと考える。最後に、森林関係の指標で何か良いアイデアがある委員はいるか。
谷委員	自然共生サイトを目安に指標とする方法もあると考える。また、森林整備はコストがかかるので経済性も考慮しながら取り組むとよい。木質バイオマスについては、熱利用も

	すべきと考える。
水谷会長	木質バイオマスについては、市内の資源についてもっと言及してほしい。自然環境の保全と絡めて、事業採算性も考慮して考えてほしい。自然共生サイトについては、記載があるとよいかもしれない。企業の森についても触れると良いと考える。
谷委員	企業も環境保全活動を行わないといけないので、企業と連携して何か事業ができるのは効果的と考える。
水谷会長	計画のボリュームがあつたため、今後何か意見がある場合は事務局に連絡をしていただきたい。
河瀬副会長	資料 3 の 6 ページ目の改定案について、「値引き」と記載しており食品ロス対策のためならすべて値引きしてもよいのか。市民・事業者の取組について、限定的な記載が多いため、幅広く捉えた記載にとどめて良いと思う。また、9 ページ目について、単独の断熱改修についても記載してほしい。最後に、EV の時間貸しの事業については、どのような内容を想定しているのか。
事務局	平日夜間や土日の利用を想定している。
水谷会長	各主体の取組がやや限定的に見えるので、さらに一般化して記載したほうが良いと考える。
矢田委員	資料 3 の 9 ページ目について、「デコ活」について記載してほしい。また、改定案の 72 ページ目の PDCA サイクルについて、現状を踏まえて仕組みを再検討してほしい。
水谷会長	意見については、いつまでに連絡すればよいか。
事務局	11/27 までに連絡をいただきたい。また、改定案については 12 月の市議会に報告後、パブコメを行う。意見反映後、2 月に再度審議予定。
4. 閉 会	

以 上